

日刊 磐城時報 石城郡石城町新屋町十四 印刷 磐城時報社 電話 二二二二 發行所 石城郡石城町新屋町十四 電話 二二二二 訂金 一月 二二二二 半年 一〇〇〇〇 一年 一八〇〇〇 廣告料 一行 十行 二十行 三十行 四十行 五十行 六十行 七十行 八十行 九十行 一百行 二〇〇行 三〇〇行 四〇〇行 五〇〇行 六〇〇行 七〇〇行 八〇〇行 九〇〇行 一〇〇〇行 以上各料 均指 印刷費 紙料費 送付費 諸費 在內 印刷 每日 八時 至 四時 止 印刷 部 電話 二二二二 印刷 部 電話 二二二二 印刷 部 電話 二二二二

平町の水道工事 用地賣收が一苦勞

好間村會議員大部分が 某町議の態度に憤慨

平町役場では水道擴張工事の人手を取敢ず百名内外採用することゝし町營職業紹介所で調査した失業者中から漸次募集することになったが、右工事遂行にもつとも困難と見られてゐるのは用地の買収とセメントの購入問題で、石城郡好間町の地主中には某町會議員のとつた態度に憤慨し感情問題から多少の策動が行はれ、またセメントは二圓六十銭以内で購入出来るべきの委員会で力説した議員もあつたが實際買収の交渉をして見ると三圓以上になつてゐたため議員の責任問題まで起る状態、最努めつゝあつた平商業學校では初から問題の同工事は町政のガンのなるでないかと一般町民から憂慮されてゐる。

貯水池を造る

石城郡江名消防組では同町大字江名七番地、二十六番地の二箇石城郡在郷軍人分會主催柔道館所に各々百石宛を容れ得る貯水池を造る事となり工費七百圓で十時から平町警城中學校道場で行ふが、参加者百余名である。

平商業學校で 生徒の實習販賣

毎日二圓の利益がある 家庭訪問は一切見合せ

日約十圓の賣上があるので毎日二圓の利益を見て二圓位はあり、返済は非常に容易である、相當利益もある事と思ひますのでその處分方法を考へばなりません、家庭訪問なども考へては見ましたが大體學生の販賣といふものは同様の結果といふものが多し、又實際上民衆逼迫となり、すから校内だけで賣事にした。

共電式電話

今夜切替

平郵便局では共電式交換に切替へ準備のため仙臺通信局から二十余名の電工が來援し九日更に三十余名が應援のため來平し十日夜半に一齊に切替へ十一日朝から共電式交換を實現することになった。

秩父宮兩殿下 平驛御通過

秩父宮並に同姫兩殿下には盛岡市から御歸還の途を常磐線により十三日午後三時四十分平驛御通過遊ばされる。

銃劍術競技

石城郡在郷軍人分會主催柔道館所に各々百石宛を容れ得る貯水池を造る事となり工費七百圓で十時から平町警城中學校道場で行ふが、参加者百余名である。

在郷軍人會

石城郡在郷軍人分會主催柔道館所に各々百石宛を容れ得る貯水池を造る事となり工費七百圓で十時から平町警城中學校道場で行ふが、参加者百余名である。

縣下大會

平町で開催 第四回縣下小學校兒童ドッチボール大會は来る廿八日午前九時より石城郡第一小學校校庭で開く事になったが、本年からは石城郡體育研究會が主催することになり参加希望者は十九日まで平第一小學校に申込みたい、尚参加資格は尋常科六學年の制限が附せられてゐる、尋常科高等科各優勝組に對しては優勝旗を授與することになつてゐるが、前回の優勝旗保有者は尋常科、高等科共に平第一小學校である。

四倉市場取引

石城郡四倉市場九日の取引は三百五十八圓、最高二十二圓十銭、最低十五圓五十銭、平均十九圓十銭である。

預り金を懐にして 鎌田遊廓で大盡遊び

梨買ひを頼まれた男 平署に告發さる

石城郡小名濱町字松の内小野清方荒木清(三〇)は去月二十八日小名濱町大字中坪上遠野勇吾から二十五圓を預り赤井村に梨買ひに赴く途中平町驛前料理店金盆でコップ酒二杯をのんで元氣つき馬を元平商業學校前に繋いだ、人力車で鎌田遊廓大豆樓に乗り込み預り金全部を費消してしまつたので九日上遠野勇吾は平署に横領の告發をなした。

死んだと思つた息子

ペルーに生存してゐる事判明

石城郡下小川村吉田利長は數年前親戚の葬儀に赴くため平町から前南米ペルーに出稼ぎに行つた息子自動車部の乗合で内郷村驛前に差しかつた際突然死亡した、平署から係官出張検視した處心臓麻痺で急死したものと判明した。

田村自動車 轢き逃げ

石城郡四倉町字仲田村自動車部鈴木光治(三三)は八日午後四時頃乗合自動車を運轉し平町大工町地内を通る際同町倉溜清次郎方雇人先崎清治(二二)のリーヤカーに衝き當りリーヤカーを大破した、逃げた事發覺其筋で取調中である。

吉田氏逝く

平町新吉田氏は八日死亡し十委員數も管内定員七名の内半數以上を平町から選出するのが至當だと一般からいはれてゐる。

公金二千八百圓を 拐帶して逃走

石城郡川前村遠藤榮吉(二八)は八百五十圓を拐帶したまま行衛小野新町郵便局に勤務し簡易保不明となつたが、局長はその後險事務を取扱つてゐたが、去る郡山局から受取證が來ないので六日舊盆で二日間の休暇を貰ひ不審に思ひ八日午後郡山局に照歸郷する際同日午後簡易保の介した結果榮吉が持ち逃げした超過金を亦行囊に入れ郡山局に事判明したので郡山署では各送金したものの如く装つて二千圓に手配した。

四倉築港 豫算計上陳情

石城郡四倉町では築港の豫算を本年度豫算に編入して貰ひ度いと縣に陳情する事になり、町長新妻盛氏以下町會議員全部は代議士比佐昌平、縣議若松美三、萩原義雄各氏と十日出縣した。

所得税の 調査員選舉

縣下各稅務署管内の所得稅調査員改選期も愈々來月の十六日に執行されるが、平稅務署では目下管内の各町村よりの報告に基き來る十六日現在によつて有権者名簿を調査することになつてゐるが、名簿確定の上副本を各町村役場に送附するのは遅くも九月二十日の豫定でこれが從覽期間は九月廿六日より同三十日まで五日間各町村役場内で施行の筈、何しろ有権者も未定の今日ではあるが從來の情勢より推して平町は總數の三分の二を占めるものと見られ従つて調査員數も管内定員七名の内半數以上を平町から選出するのが至當だと一般からいはれてゐる。

自動車の 乗つて急死

石城郡好間村大字川中子鈴木菊夜に幸されて近年稀な盛況裡に昨夜の湯本町觀音祭を最後治(四五)は九日正午頃内郷村の

盆の觀樂

盛況裡に終る 平地方の名物盆踊りも冷涼な夜に幸されて近年稀な盛況裡に昨夜の湯本町觀音祭を最後治(四五)は九日正午頃内郷村の

相馬支局通信

相馬戀しや

神田氏の歌
先年日本青年館主催の第一回全
國民謡舞踊大會に相馬流山が上
演されてからこれに多大の興味
を感じた同館の神田海之助君、
相馬戀しやの情願の切なるもの
あり、去る七月野馬追見物をか
ねての宿望を遂げたが、それだ
けでは心残りが多いと更に同
館の館主任で相馬出身の大久
保利政君を引つ張り出し活動寫
眞を携へて八月相馬を訪問し同
地民謡連の情熱的歓迎を受け二
晩ともうたひ明かし踊りつゞけ
て歸つたが、この程左の流れを
作つて相馬へよせて来た。

相馬戀しや木萱の枝に
義理と人情の花が咲く
相馬通はやめられぬ

遙か彼方は相馬の空か
相馬戀しや懐しや。

讀者 (投書歓迎)
論壇 一行十三字詰
卅行以上五十行迄

現代の女性

女性を物品視し奴隷視した
時代は既にすぎきつて婦人の
人格を十分に認めて進まうと
言ふ所謂婦人問題なるものが
際立つて来る事は今更このに
喋々を必要とせぬ。しかし、こ
とへ男子が婦人の人格を認め
得たとするも女子自身が全く
自覚なき状態において一國の
文化の發達はこれだけ阻害さ
れるか知れない。文化生活に
おける男女との關係はちや
うど二人三脚の競技における

如く一方のみすすんでゐても
それは結局物にならないから
だ。然るに斯の如き婦人問題は
都市婦人においてこそ最もよ
く研究されてゐるが、農村に
あつては未だ何等の進歩を見
ない、眞に悲しむべき現象だ
その弊の男子にある事をも
充分自覚しなければならぬ。比
して如何に理想を否定した
ひたすら現實にのみ没頭する
四つ匍ひの泥龜にも似た生活
であるかに驚く、それは進後
向上なき永久に呪はれたる生
活なんだ。
私はこれに關して喋々と書
き立てる紙面を有しない故に

電話番號變更廣告

十一日から電話番號左の如く
變更致しました。

一八一番 平町南町 川井内科診療所

一九三番 平町仲町 二葉印刷所

六七一番 平町紺屋町 田巻商店

三八一番 平町二丁目 佐藤巖商店

平町南町 看護婦會

看護婦派生の需めに應じます

コークス大々的値下斷行

從來一俵金壹圓貳拾錢ノ...
東京瓦斯コークス... 金九十五錢ニ
一家ノ經濟ハ臺所カタ...
電話二三三七番

耳鼻咽喉科專

氣管食道科門

病室完備：自炊の便あり
平町南町 大和田醫院
電話一七〇番

高久病院

醫學士 高久 忠
新編醫學士 赤羽 清
藥劑士 佐竹 菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

耳鼻咽喉科專

平町仲町七七一
應入院 合津醫院
電話一五五九番

故吉田定太郎葬儀の際に遠路...
御會葬被下且つ御鄭重なる御香奠
を賜り御厚志の段有難く御禮申上
候一々拜趨御禮申上可き筈の處
乍略儀以紙上御挨拶申述候
昭和五年九月十日
平町新川町
吉田義男
外親戚一同

吸入用酸素、酸素吸入器
正確体温器、寒暖計
特約店 開内藥局

良服
輕快で瀟洒な夏服
の季節となりました。
スマートな今年度の
新製品が豊富に
取揃ひました。
平二 ふかや洋服店 電話203